

## 8 専門家等の技術的助言

対象事業を進めるにあたって、具体的な施設計画及び工事計画や環境調査の結果を基に専門家等から技術的助言を受け、環境保全措置等を実施している。専門家等の技術的助言を表 8-1 に示す。

表 8-1(1) 専門家等の技術的助言

専門分野	所属機関の属性	主な技術的助言の内容
動物 希少猛禽類	公益団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クマタカ（広河原ペア）については、コンディショニングを行いながら広河原非常口外のヤードの整備工事を行うことが望ましい。</li> <li>・飛翔の状況によっては、観測地点の見直しを検討する必要がある。</li> <li>・現在もトラックが通行している中で、クマタカ（広河原ペア）の古巣があるということは、現況環境でも繁殖してきたということであるが、町道と営巣木では標高差が 200m 以上あるので、直接的な影響は少ないと思われる。工事による影響がないか確認できるように、営巣期には、継続的に調査を実施し、調査結果を工事計画に反映できるようにしておくことが必要である。</li> <li>・クマタカ（広河原ペア）については、営巣場所と工事ヤードとは高低差があるので、クレーン等の高さのコンディショニングは気にしなくてもよいと思われる。</li> <li>・コンディショニングに伴う監視調査については、一番近傍のヤード整備工事を対象に、工事前日とコンディショニング期間に実施することで良いと思われる。</li> <li>・クマタカ（青崖ペア）の飛翔確認数の減少等は、イヌワシ（早川町ペア）の影響が考えられる。</li> <li>・本工事においてコンディショニングを考える場合は、工事期間が営巣期にかかる場合に、段階的に工事規模を大きくしていくことが望ましい。</li> </ul>
	公益団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り定量的なデータを蓄積して、通常の工事を行う中で実行可能な確実性の高い措置を実施していくべきである。</li> </ul>

表 8-1(2) 専門家等の技術的助言

専門分野	所属機関の属性	主な技術的助言の内容
動物 両生類、爬虫類、魚類、底生生物	公的研究機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル上部の河川や沢については河川水量が豊富ではあると考えるが、排水については適切に処理したうえで放流する必要があるとともに、希少な水生生物が生息する流量が少ない河川に排水する場所において、水温を定期的に確認することが望ましい。</li> <li>・早川非常口付近ではシマヘビが確認されていることから、小動物が這い出せる排水溝を流末に設置することが望ましい。</li> <li>・早川非常口と近接していることから、早川東非常口においても、小動物が這い出せる排水溝を流末に設置することが望ましい。</li> <li>・夜間照明の効果に関する事後調査については、生物多様性の観点からは、個体数よりも種数をもとにした評価を重視すべきである。今回は、希少種も LED に飛来しておらず、種数も少ないことから環境保全措置の効果はあるものと言って良いだろう。</li> </ul>
植物	大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育地を回避できない種については、移植または播種することが望ましいが、保全措置を行った後の結果を自治体や専門家に報告することが重要である。</li> <li>・メハジキの播種時期としては、越年草であるので、秋頃が望ましい。また、播種を行う場合は、余分に種子を採取しておくことも必要である。</li> <li>・メハジキの播種は移植を実施した箇所、タチキランソウの移植は生育地周辺の自生地とすることで良い。</li> <li>・ヤマユリについては、球根の移植により対応することは可能である。リスク分散のために複数箇所へ移植することは有効だろう。</li> </ul>
	公益団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移植後の調査期間は、これまでの事例を踏まえると3年間（結実期と必要に応じて開花期を含めて）程度が適切と考えるが、今後の生育状況やそれを踏まえた専門家の助言等に応じて期間の見直しを検討していく必要がある。</li> <li>・移植個体が消失したタチキランソウ（早川町新倉（広河原））はシカ等による食害と考えられる。個体の消失はやむを得ないものであり、移植先としては問題なかったと考える。</li> <li>・早川東非常口については、工事施工ヤードの計画では重要種の生育地は回避しているものの近くにあるため、生育地付近に近づかないように工事従事者への教育・講習を徹底する必要がある。</li> </ul>